

スポーツ

「実はウォーキングはしない。ただ、4年前からマラソンに挑戦していく。これまでにフルマラソンに4回出場、完走した。初めて完走したときにはゴーラーの涙が出て。これが達成感なんだ。走ることと歩くことは違うのだろうが、100キロを歩き通すことはまた違っている。

大会「SUN-IN未来100キロウォーク」が11月9日から10日にかけて開かれる。主催するNPO法人未来の理事として、コース部長としてコース設定などを担当し、大会開催に向けて奮闘を続いている。

「未来ウォークの中でも最長距離の大会。

取県内では最も長距離の過酷なウォーキング大会で、鳥取県内では最も長距離の過酷なウォーキング大会で、鳥

「SUN-IN未来100キロウォーク」運営

山崎信吾さん



＜プロフィル＞やまさ
き・しんご 倉吉東高卒
業後、鳥取県職員を経て、
40歳のときに倉吉市の谷
口病院に転職。現在は事
務長を務める。2009年か
らNPO法人未来理事。
倉吉市上井。52歳。

「海辺」楽しめるコース

「また、多くの地域を歩き通すのは難しい
方に協力をお願いが、5人以上で参加す
し、ドリンクや軽食の提供をしていただき。
多くの人に参加していくリレーもある。途中
で交代してもOKとしている。ぜひ職場で、
ただいま、リピーターとなつてもううのに大切
なのは、運営する人、地域でチームを組んで
地域の人の対応とおも
・倉繁淳志」
(聞き手は中部本社)

た達成感が生まれると思つ「昨年の第1回大会では、最後尾の出場者にずっと車についていた。最後尾の女性が残り2時間あと約10キロというところになり、『完歩は無理か』と思ったが、車を降り時ごろにゴールすると

て声を掛けながら一緒に歩くと、どんどん元気が出てきて、とうとう制限時間の10分前にゴール。ようやくウオーカーの気持ちが分かった気がした」

「今回のコースは、速い人では午前3時に山や峠が連続するので、ここを頑張って乗

り切つてほしい」後半は暗い中を歩くことになり、大会運営上氣を吐いてはいることは。県中部のすべての市や町を歩いてもらうことで、「暗い中を歩くこととともに、明るいことが多いので、道に迷うことともない。全国にうちに海辺の景色を見ることができないように注意している。コース上にでもらえるコースにし、それを集める100キロウォーキング大会もある。この大会もそういう大会になつてほしい。人が

「ことしでようやく2回目で、まだまだ知られていない。全国に4千人以上の参加者が200本ののぼりを立てて迷わないよう工夫したこと」とは。」